

Lipid Kinases

品名	メーカーコード	コードNo.	容量	希望納入価格(円)
PIK3CA/PIK3R1 Phosphatidylinositol 4,5-bisphosphate 3-kinase catalytic subunit alpha isoform	11-101	309-94931	20 μ g	88,000
		305-94933	100 μ g	350,000
PI3キナーゼは脂質キナーゼであり、PIK3CAはPIP2をリン酸化しPIP3を産生するClass IA酵素の触媒サブユニット。様々な成長因子の刺激によって活性化され、PIP3の産生を通してAKT1, PDPK1などのPHドメインを持ったシグナル伝達分子を細胞膜にリクルートすることによって細胞の成長、生存、増殖、運動性、形態などを制御する。PIK3CA/Bは様々な組織に広く発現し、インスリンシグナリング、エンドサイトーシス、血管内皮平滑筋の収縮、細胞分裂とUVによるダメージ応答等の調節に関与する。PIK3CAの変異は様々ながんで見られる。	法規/保管	-	100 μ g \times 2	500,000
	カルタヘナ /-80°C	-	500 μ g	750,000
		-	1mg	1,200,000
	Length	Tag	Form	M.W.
	Full-length	N-terminal GST	Wild type	151 kDa
	Accession No.	Amino Acid	Expression System	
	NP_006209.2	1-1068(end)	Insect (sf 21)	
PIK3CB/PIK3R1 Phosphatidylinositol 4-phosphate 3-kinase C2 domain-containing subunit beta	11-102	306-94941	20 μ g	88,000
		302-94943	100 μ g	350,000
PI3キナーゼは脂質キナーゼであり、PIK3CBはPIP2をリン酸化しPIP3を産生するClass IA酵素の触媒サブユニット。様々な成長因子の刺激によって活性化され、PIP3の産生を通してAKT1, PDPK1などのPHドメインを持ったシグナル伝達分子を細胞膜にリクルートすることによって細胞の成長、生存、増殖、運動性、形態などを制御する。PIK3CABは様々な組織に広く発現し、インスリンシグナリング、エンドサイトーシス、血管内皮平滑筋の収縮、細胞分裂とUVによるダメージ応答等の調節に関与する。PIK3CBの変異はがんで見られないが、PIK3CBの阻害はPTEN欠乏性/RAS依存性腫瘍の成長を抑制するため重要な創薬ターゲットとされる。	法規/保管	-	100 μ g \times 2	500,000
	カルタヘナ /-80°C	-	500 μ g	750,000
		-	1mg	1,200,000
	Length	Tag	Form	M.W.
	Full-length	N-terminal GST	Wild type	150 kDa
	Accession No.	Amino Acid	Expression System	
	NP_006210.1	1-1070(end)	Insect (sf 21)	
PIK3CD/PIK3R1 Phosphatidylinositol 4,5-bisphosphate 3-kinase catalytic subunit delta isoform	11-103	307-99731	20 μ g	88,000
		303-99733	100 μ g	350,000
PI3キナーゼは脂質キナーゼであり、PIK3CDはPIP2をリン酸化しPIP3を産生するClass IA酵素の触媒サブユニット。様々な成長因子の刺激によって活性化され、PIP3の産生を通してAKT1, PDPK1などのPHドメインを持ったシグナル伝達分子を細胞膜にリクルートすることによって細胞の成長、生存、増殖、運動性、形態などを制御する。PIK3CDは白血球に発現して免疫反応を制御し、急性骨髄性白血病におけるPI3K活性を担っている可能性が示唆されている。	法規/保管	-	100 μ g \times 2	500,000
	カルタヘナ /-80°C	-	500 μ g	750,000
		-	1mg	1,200,000
	Length	Tag	Form	M.W.
	Full-length	N-terminal GST	Wild type	147 kDa
	Accession No.	Amino Acid	Expression System	
	CAA71149.2	1-1044(end)	Insect (sf 21)	
SPHK1 Sphingosine kinase 1	11-105	302-83073	5 μ g	33,000
		306-83071	100 μ g	250,000
スフィンゴシンをリン酸化しスフィンゴシン1-リン酸(S1P)に変換する脂質キナーゼ。S1Pは細胞増殖刺激などを受けた際に生成され、細胞の増殖、分化、細胞死、食作用、炎症・免疫反応を制御する。SPHKの阻害はPDGFや血清による細胞増殖、エンドトキシンによる炎症促進性サイトカイン産生を抑制する。TNF α シグナリングやNF- κ Bシグナリングにおいて重要な役割を果たす。活性化した食細胞や敗血症患者の食細胞にて活性亢進される。	法規/保管	-	100 μ g \times 2	350,000
	カルタヘナ /-80°C	-	500 μ g	500,000
		-	1mg	700,000
	Length	Tag	Form	M.W.
	Full-length	N-terminal GST	Wild type	69 kDa
	Accession No.	Amino Acid	Expression System	
	NP_001136074.1	1-384(end)	Insect (sf 21)	